

かゑらじと かねて思へハ 梓弓

なき数に入る 名をぞとどむる

四條畷に散った若き武将、楠正行

楠正行通信 第149号

令和4年8月9日

発行＝四條畷楠正行の会

〒575-0021 四條畷市南野5丁目2番16号

四條畷市立教育文化センター内 072-878-0020

公開講座「楠正行の生涯を学ぶ」感想文—その①

正成・正行をウルトラマン化しては…

スラバヤ沖海戦で撃沈した敵兵を救出した工藤艦長

● 公開講座、無事終了しました ●

7月12日、四條畷楠正行の会主催・公開講座「楠正行の生涯を学ぶ」(10回シリーズ)は、会員に加え延べ13名の受講生を迎え、無事、最終回を迎えました。

この日は、正成・正行に関わる紙芝居2題を上演後、提出された感想文をもとに意見交換をし、最後に受講生の方に記念品をお渡ししました。

以下、感想文をご紹介します。

小楠公墓に向かつて立つ法然寺の阿彌陀如来

今回の楠正行講座に参加をさせていただき、私の今まで抱いていた疑問が少しずつ解けてきました。その一つが、四條畷神社が1890年に創建されたのに、なぜ、1878年に暗殺された大久保利通の筆跡が残っているのか、ということです。これは扇谷先生のお話しでよくわかりました。

5月24日の現地学習では、東高野街道が曲がりくねっていること、これは私の空想ですが、三好長慶以前から



城下町の道路はクランク状につくられていたのではないかと、また雁屋地区には旧字名にキトラがあり、城の構造の一つではなかったか？ また、私が住職をしていました法然寺は、多くの浄土真宗の寺々の様に、阿彌陀如来が西方から我々の有情を見守ってくださる形式ではなく、逆に東向きに建立されていること、即ち小楠公の墓地に向かって礼拝している格好になっていることなど、いまだ色々疑問が残っています。

これは私見ですが、今までの皇国史観・天皇を守った中心として神社を維持していくよりも、これからの若い人々には河内国・摂津国・和泉国を建設しようとした楠父子像として持っていく方が良いのではないかと、思った次第です。

令和4年6月

長谷 宗靖

歴史上、最も稀有な武将

『私』と「正行」がどのようにしたら結びつくのか悩みましたが、無理やり結び付けようと割り切り、感想文をスタートさせました。

私は、四條畷神社の大鳥居の近くで戦中に生まれました。畷小学校3年までは祖父母に育てられ、祖父には神社へよく遊びに連れて行ってもらったことを覚えています。正行が祀られていることを知ったのは中学生ぐらいの頃だったと思います。また、祖父が戦後の村相撲で「大関」を張り、3歳か4歳の頃の私を抱いている写真を祖父の死後に見せられて驚きました。なんと、祖父の

化粧まわしが「菊水」であったことです。

このような環境で育った私は、40歳ごろになって、やっと吉川英治の「私本太平記」を始めとして、楠正成の本を何冊か読みましたが、正行に関する本はいくら探してもなく、ガッカリでした。そして、50歳を過ぎたころに、定年退職したら一人で楠家の史跡のある千早赤阪や吉野等を訪ねようと考えていました。それが、70歳で会社を退職したとき、偶然にも四條畷市主催で「正行の史跡を巡るバスツアー」（年5回）×3年間が開催され、毎回の募集が「教育文化センター」であって、朝8時ごろに行けば、何とか20名の中に入れました。楠家の史跡ツアーですから、私としては堪りませんでした。観心寺、隅田城、建水分神社、千早城、渡辺橋、湊川神社、桜井の駅、如意輪寺、正行寺等々です。そのツアーでご説明いただいた扇谷代表に、引き続きお世話になり、楠正成を勉強させていただくことになりました。

私は、現代小説よりも歴史小説を読むのが好きなので、何故かといえば、その人物像はもちろんですが、時代背景に興味があり、その人物が導かれる過程に興味がありました。

ところで、楠正成、正行親子の人物像としては、ゆるぎない帝への忠誠心ですね。それに、武略に優れ、教養があって、博愛の心、無私の心、例えば戦争によって獲得した城・領地に対して無私であった武将は、私が読んだ歴史上の人物にはいなかったですね。時代背景としては、鎌倉幕府の終焉—建武の新政—南北朝の時代—室町幕府の誕生という複雑にして難解な時代（どちらの親分に付いたら生きていけるのか）に、帝への忠誠を貫き、超スピードで駆け抜けたという印象があります。しかし、楠正成、正行親子の歩んだ生涯は、短くて波瀾万丈でありましたが、江戸期の太平記読み、幕末の維新の精神、昭和の第二次大戦における軍国主義等に影響を与えたり、利用されたりした歴史上の人物として、最も稀有な武将であったと思います。こんな武将いません。

令和4年6月14日 四條畷楠正行の会 土井利勝

渡辺橋の美談は武士道の原点

先ずは、扇谷代表をはじめ、四條畷楠正行の会の方々におかれましては公開講座を開催いただき、誠にありがとうございました。

今回の公開講座に参加させていただきました感想を述べさせていただきます。私は全10回の内、9回参加させていただきました。楠正行のお話の中で、私の一番は、やはり渡辺橋の美談です。正行の会の皆様はご存じかと思いますが、少し太平洋戦争時のお話をさせていただき

ます。

1943年3月に日本軍駆逐艦「雷」がスラバヤ沖海戦でイギリス海軍の巡洋艦を撃沈するなどの戦果を挙げ、翌日、漂流者を発見。彼らは前日の掃討戦で沈没したイギリス海軍の乗組員でしたが、それを発見した「雷」の工藤艦長が救助の命令を出しました。敵潜水艦などからの攻撃を受けるリスクがありながら3時間にわたって行われた救護活動の結果、「雷」の乗組員220名の倍近い422名を救助。救助した彼らに自分たちの貴重な飲み物や食料、衣類を与えて手厚くもてなし、翌日、オランダ海軍の病院船に捕虜を引き渡したそうです。このお話について、工藤艦長は、戦時中の国民世論の反発を考慮して公表されず、親族にも語らなかったそうで、1987年に当時のイギリス軍捕虜がアメリカ海軍の機関紙に「武士道」と題する工藤艦長を讃えた7ページにわたる投稿文を掲載したことがきっかけで、日本でもマスメディアに取り上げられ2006年に書籍が出版され戦後50年を経過して日本に逆輸入されたお話です。

これはまさに正行魂が近代まで継承されたことであり、今回受講して工藤艦長のお話を思い出し、渡辺橋の美談が武士道の原点であると改めて認識できました。

次に、現地学習です。特に良かったのは「古戦田」での扇谷代表の楠正行の戦いぶりのご説明でした。私は、3年前に趣味の楠公さんめぐりで四条畷駅から正行公の墓、和田賢秀の墓、四條畷神社、飯盛山頂、ハラキリ、十念寺、枚岡神社、東大阪の歯がみさん、往生院六万寺、安楽寺こと醍醐寺等を回ったことがありましたが、古戦田は場所が分からず行けず仕舞いでした。古戦田以外の場所を回って、点で知っていたことが、今回の古戦田での代表の説明ですべてが線につながった気がします。知ったことを、現地まで行って自分の目で見てやっと自分に落とし込めるような気がするので、いまだ行ったことがない金峯山寺、吉水神社、如意輪寺をはじめ、公開講座で知った、岸和田市の名前の由来でもある岸和田氏や貝塚市橋本の地名の由来である橋本氏等、南朝方でまだまだ知らない方が活躍した史跡巡りを継続していきたいと思いました。

最後に、私の夢ですが、会社をリタイアした後は、次世代の子ども達に日本の偉人伝の語り部になりたいと思っております。そのためには、四條畷楠正行の会に今後も参加させていただき、勉強させていただきたいと思っておりますので、引き続きご指導のほど、よろしくお願ひいたします。本会の今後のご繁栄とご活躍をお祈り申し上げ、私の所感とさせていただきます。

令和4年7月12日

青木 繁

(文責：四條畷楠正行の会代表 扇谷昭)